

# 「太平山麓九条の会」だより

事務局：須黒法律会計事務所

〒328-0027 栃木市今泉町 2-4-18 FAX0282-22-3757

電話連絡先 0282-22-7079(増田)

Eメール [ohirasamroku9jo@yahoo.co.jp](mailto:ohirasamroku9jo@yahoo.co.jp)

HP：太平山麓九条の会で検索



198号

2023年12月14日発行

## 「紛争は軍事でなく、話し合いで！」を多数の意見にしよう 憲法9条を生かす社会に！



ロシアのウクライナ侵略を機に、「軍備を充実させなければ国を守れない」という主張がいろいろな形で、国民の中に浸透しだしています。恐怖を利用した思想操作といってもいいと思います。忖度なしに冷静に考えてみれば、安保三文書は憲法9条違反なのですが、それを盾に、政府は軍事費を増やすことは規定の事実のように、着々と予算化し、アメリカから多くの武器を買っています。

ウクライナの状況、新しく始まったガザでの状況をみれば、いったん戦争が始まれば、大きな被害を受けるのは、子どもや弱者であることは明白です。そして、戦争を止めることがいかに難しいかを知らせてくれています。

「軍備を充実させれば、攻められない」というのは大きな錯覚です。軍備を充実させれば、相手と思われる国も当然軍備を拡充します。それは際限なく続くでしょう。そして、武器を持てば、戦うことに躊躇しなくなります。

「軍隊を待たない、武器も持たない、戦争はしない」と宣言した9条を守り生かすことの方が、他国の信頼を得、戦争を回避する近道だと思うのですが、いろいろな場所で、いろいろな人と会話する中で、「軍備を増やすより、福祉や、教育に予算を使い、格差をなくす。そして紛争には会話で」の憲法9条の精神を語り、広めていきましょう。

### 私と憲法9条

第二次世界大戦の終戦は、私が3歳の誕生日を迎えた直後だった。我が家の庭にも大きな防空壕があり、空襲警報が鳴るとそこに入った。飛行機のエンジン音は私をとて緊張させ恐怖感を与えた。一九四五年八月十五日、終戦。その後も上空を飛行機が飛んだ。そのたびに怖いと思う緊張感がずーと続いた。幼い時の自覚しない怖さと緊張感がトラウマとなっていたのだ。

現在、ロシアのウクライナ侵略、パレスチナとイスラエルの戦争が連日報道されている。子どもたちが沢山亡くなり、傷ついている。私が幼い時に経験した緊張感、怖いと思う経験など比較にならない。眼の前で家族が亡くなり、自分が傷を受けている。子どもたちの心はどうなっていくだろう。戦争は今すぐやめてほしい。

日本には憲法がある。

### 第九条 軍備及び交戦権の否認。

「日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。2、前項の目的を達するために、陸海空軍その他の戦力はこれを保持しない。国の交戦権はこれを認めない。」

今、政府は憲法を変え、日本を戦争できる国にしようとしている。国を守るためだ、というけれど、武器があったら攻撃される。武器のない国を攻撃したら、国際的に批判される。

私自身の小さな経験かもしれないけれど、世界中の子どもたちが、楽しく笑顔で生活できるよう、声を上げていきたい。

【増田美奈子 記】



### ◆カンパのお願い◆

九条を守り生かすための活動にご協力やご援助いただきありがとうございます。物価高のところ縮小ですが、活動を継続するためにカンパのご協力をお願いいたします。カンパは振り込みか、スタッフに託していただくと幸いです。カンパはニュース発行や催しの経費に使わせていただきます。

# 「学童疎開船対馬丸」 撃沈 上野 和子(記)

さんざめく子等を乗せたる対馬丸我が目の前で魚雷命中す  
真珠湾にボーフィン号が展示され総身ふるうごとき怒りが

新崎美津子(上野和子の母)



太平洋戦争末期の1944年8月22日、長崎に向かっていた「学童疎開船対馬丸」は、鹿児島県トカラ列島悪石島付近で、米潜水艦ボーフィン号の魚雷攻撃を受け沈没した。乗船者1788名のうち、救助された生存者は280名。学童は59名だけだった。

この対馬丸に那覇市天妃国民学校の訓導をしていた母は引率として乗っていた。魚雷命中の間、船は大勢の乗客を飲み込んだまま沈んだ。甲板にいた母は子供たちと共に海に投げ出された。母は運よく助かったが、家庭訪問して勧誘した子供たちや大勢の父兄からよろしくと頼まれたのに誰も助けることが出来なかった。自分だけが生き残ってしまい、生涯苦しむことになった。

この子供たちを殺したボーフィン号がハワイ・パールハーバーに展示されているのは許せない。確かめたいとハワイに向かった。日本の真珠湾攻撃で始まった太平洋戦争。ここに建設されているアリ

ゾナ記念館は米海兵隊の眠る慰霊施設である。

しかし、この戦争博物館となっているデジタルセンターの中に入った途端、母は激昂した。対馬丸が魚雷攻撃を受け、阿鼻叫喚地獄のような瞬間が蘇って来たのだろう。前を歩いていたバスガイドの女性に絞り出すような声で言った。「やとと…やとと来ましたよ」母の顔は真っ赤になって、硬直しているのか、興奮しているのか、それをやとと抑えているという苦しそうな表情をしていた。

ボーフィン号は海に浮かんだ形で係留されていた。母は遠くから眺めるだけで近寄ろうとはしなかった。殺人潜水艦ボーフィン号。復讐の眼光を思い切り投げつけたのだろう、帰路母の顔は穏やかな表情に戻っていた。

2006年11月8日、亡くなった子供たちへの供養になればと、太平洋山麓九条の会の「戦争体験を聞く会」で初めて対馬丸事件のことを話した。気持ちが軽くなったと言った母。ここまで温かく導いて下さった皆様方に深く感謝申し上げたいと思う。

新崎美津子さんは、「太平洋山麓九条の会」が、二〇〇六年十一月八日の夜、大平中央公民館において、初めて「学童疎開船対馬丸」の悲劇を語ってくださいました。右はその当時の写真です。



新崎美津子さんと上野和子さん

- ◆ スタンディング 1月9日(火)市役所前・19日(火)コープ栃木店前 両日とも午後3時～
- ◆ スタッフ会議 1月11日(木)栃木市交流センター4F研修室 26日(金) くらら2階

